

呼吸器診療の進歩とともに25年

帝京大学医学部内科学講座
呼吸器・アレルギー学 教授

長瀬洋之氏（平6卒）

平成6年卒業の長瀬と申します。このたびは、寄稿の機会をいただき感謝申し上げます。学生時代は、鉄門スキー部に所属し、菅平で年間30日以上の合宿生活で勉強しながら合宿を送っていました。六年生になつても、スキー場で勉強しながら合宿を続け、国試翌日にも東医体に出場し、何とか完走しました。内科医を志しましたが、ある科に一期目の研修希望が集中したため、ジャンケンで10数人から一人が抜けることになりました。私がその一人となり、物療内科から研修を開始しました。物療内科は、アツトホー

ムな雰囲気で、膠原病と呼吸器に加えて血液疾患等も入院しております。現在でいえば総合診療研修でした。全身を診る診療を学ぶことができ、また、研修中に呼吸器疾患に興味を持つて今日に至つておりますので、ジャンケンは天の配剤であつたと思っています。

その後、現在の国立国際医療研究センターで呼吸器科レジデンントとなりました。全国から研修医が集い、切磋琢磨し、熱気を帶びていました。敷地内の研修棟に個室を与えられたが喜んでおりましたが、院内ポケベルの圈内で

あり、完全主治医制24時間診療に向き合いました。工藤宏一郎生（昭47卒）をはじめとする諸先生の薫陶を受け、呼吸器臨床の深さを学びました。吸器内科学には、喘息COPD・間質性肺といつた炎症性疾病加えて、感染症、腫瘍など幅広い分野があり、そのバリエーション的魅力的に感じました。現在でも、各分野で展が続く呼吸器内科を選んでよかつたと実しております。

この間、伊藤幸治授（昭36卒）主宰の物療内科に入局させていただきました。平

ルス成分 (ssRNA) 直接好酸球を活性化することを報告し、感後の一端が理解でた印象で、楽しい院生活を送らせていただきました。

2003年から士健教授（昭50卒）の誘いで帝京大学に異動し、現在に至っています。大田先生に厚労省班研究等多く積ませていただき感謝しております。帝京学の学生は、性格がやかで、医師として性の高い学生が多いと思います。教育は、やかな雰囲気で進

まつており、多施設化す
ホートで表現型に閑
る長期検討を行う機
をいただいておりま
都内の大学では、瞼
を専門とする医師は
次々と呼吸器内科学

發信しようと模索しています。また、吸入薬の使用法に誤りが多いことから、病葉連携の吸入指導システムを薬剤師さんとともに確立し、コントロール向上

鉄門臨床講堂開所式開催される

とは大変嬉しく、少しでも新たな知見を臨床現場に還元できるよう努めたいと思います。今後とも一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

計画されていれば赤
ンガの建物にはなつ
いなかつただろうと
ことであつた。なむ
南研究棟前に植わつ
いるシンボルのプラ
ナスの木は竣工当初
らのものである。当
は二階建てで、講堂
分の建物も存在して
なかつた。三階部分
講堂部分は後から増
された。耳鼻咽喉科
整形外科の医局のみ

下においた。この自主管理は平成7年まで続き、この年まで東大紛争は継続していたと文部科学省には見なされていたという。東大紛争後の南研究棟は、建物が劣化し、講堂は位置となり鳩の住処となる有様であった。しかし、古くとも威厳のある建物であり、中庭の樹木が目に優しく、赤レンガチャームとして入

待を述べられた。新・南研究棟では、一階に福利厚生施設として薬局・カフェ、健康と医学の博物館が、二・三階に東大産学協創推進本部によるインキュベーション施設が、三階にはさらに鉄門臨床講堂とセミナー室が配置され、テラス席や健康と医学の博物館への動線として活用されている。

南研究棟に対しても、
は、大学の中だけで、
完結しない、产学連携の新しい研究の形態を示すモデルケースになつてほしいと期待します。



▲ミーティング後の一コマ 後列左奥から右へ
筆者、権教授（日本大）、福永教授（慶應大）

手前左 多賀谷教授（東京女子医大）

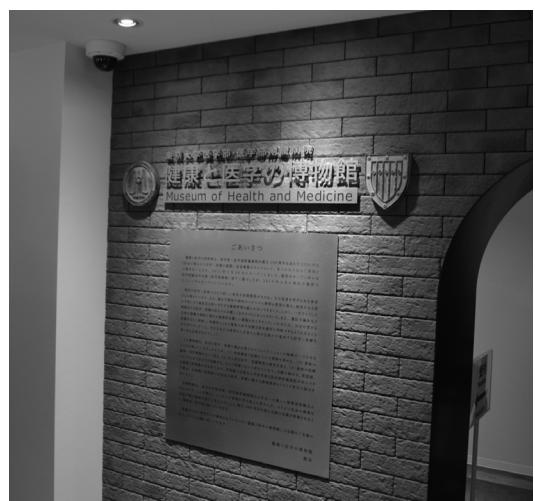
剤の抗体製剤がありますが、大学院生が用いていた I.L. - 5, I.L. - 4, I.L. - 13 を標的とした抗
体薬が開発され、患者さんが劇的に改善するのを目の当たりにすると、感慨深
いものがあります。実験で接していました

産学連携施設、福利厚生施設が入居したことについての説明。次に、前臨床講堂に関する説明。前臨床講堂が2013年に無くなつて以来寄せられた要望に応える形で、鉄門臨床講堂へのリニューアルが実現したと述べられた。



▲赤いシートと窓から覗く緑が印象的な臨床講堂の様子

研究には非常に苦勞したとのことで、研究棟が封鎖され、研究には非常に苦勞したとのことで、貴重な検体が取り出せず、駄目になつてしまふなどの被害もあつたといふ。昭和44年に精神科の病棟派が東京大学精神科医師連合として南北研究棟の精神科病棟を占拠、自主管理



▲健康と医学の博物館は医学図書館の地下から移転した

第章

令和元年度鉄門旅行のご案内

毎年秋に開催されます鉄門旅行は、多くの鉄門の先生がたや在校生、卒業生の方々にご参加いただき、鉄門同窓の交流の場となっております。

本年度は下記の日程で、群馬県伊香保温泉を訪れます。現在ご参加のお申込みを受付中です。先生がたにおかれましては、御多用の折とは存じますが、お時間が許す限りご参加いただけますと幸いです。

記

日時：令和元年11月9日（土）・11月10日（日）

宿泊：伊香保温泉「森秋旅館」

観光先：（1日目）徳明園、伊香保おもちゃと人形自動車博物館、（2日目）伊香保温泉グリーン牧場、富岡製糸場

懇親会：一次会は19時より、二次会は21時30分より開始の予定でございます。

アクセス：JR渋川駅より車で20分

参加費：3万円（ご宿泊なさらない場合は1万5千円）

※先生がたのお申し込みは直前まで受け付けておりますが、準備の都合上一次参加締め切りを10月11日（金）といたします。ご参加いただける先生がたは、下記のQRコードよりお申し込みください。

※ 参加費は当日支払い、もしくは事前振込にて承ります。事前振込を希望される方は、下記連絡先までご連絡の上、以下の参加費専用口座までお振込ください。

**振込先（参加費）：みずほ銀行
本郷支店（支店番号075）普通預金
口座番号 2876657 口座名義 鉄門旅行
お手数ですが振込名義としてお名前の前に
卒業年度を記載してください。
(例：S50ホンゴウタロウ)**

【ご寄付のお願い】

鉄門旅行は、毎年先生がたの温かいご支援を賜りまして、多くの先生がたと学生の垣根を超えた交流の場を設けることができております。つきましては大変恐縮ではございますが、ご寄付のお願いの意趣をご了解いただき、ご援助いただければ幸いに存じます。ご援助いただけます場合には、下記メールアドレスにご連絡の上、以下の口座までお振込いただけますと幸いです。何卒よろしくお願い申し上げます。

**鉄門旅行の銀行口座：みずほ銀行 本郷支店
(支店番号075) 普通預金
口座番号 2395608 口座名義 鉄門旅行
お手数ですが振込名義としてお名前の前に
卒業年度を記載してください。
(例：S50ホンゴウタロウ)**

ご質問や、お申込み内容の変更などございましたら、下記メールアドレスにお願い致します。皆様のご参加を心よりお待ち申し上げます。

令和元年度旅行委員 堀田成悟

**【連絡先】鉄門俱楽部事務室
Email : tetsumonyokou@gmail.com
FAX/TEL : 03 - 5689 - 4758 (内線83683)
電話受付時間：平日 10時～16時30分**



▲「病院の杜」にある分院百周年記念碑



▲正門から左手を撮影。木々の配置は当時のままだ

護国寺駅から二丁目坂を登った目白台の地に長く親しまれた東大病院分院は2001年、本院との組織統合により104年の歴史の幕を閉じた。その跡地には東大工学系研究科建築学専攻の千葉学研究室、および東大生産研の今井公太郎研究室の設計で東大学生向けの宿舎の建設が進められてきた。閉院から18年の時を経て、「目白台インターナショナルビル」として2019年9月、ついに開寮を迎えた。開寮直前の8月末日、千葉研の吉川真理子特任研究員にご案内いただき、分院の香りを残す新宿舎を取材した。

——宿舎の概要について教えてください。

東京大学目白台インターナショナルビルレジデンスは産学協創施設のENTREPRENEUR VILLAGEと国際宿舎であるRESIDENCEからなっています。さ

生、地域の方など多彩な交流が生まれる宿舎になります。産学協創施設は、東京大学の産学協創推進本部の進める新プロジェクトの一角として、柏Ⅱアントレープナーハブ、東大病院

南研究棟アントレープナーラボに並んで進

歩道のウッドチップと並ぶような形で設計を行いました。止

められているもので起業・大学発ベンチャーを後押しし、民間企業との共同研究が進む場所にもなることが期待されています。

国際宿舎は部屋数およそ850室で留学生・外国人研究者を入居対象としていますが、日本人研究者・院生・研究者の応募を制限するもので

——分院時代の面影は随所に残っています。分

院時代には木々が多くあります。豊富な緑が特徴的です。そうした木々をなくさない工夫について教えてく

るべく伐採せず済むよう、避けるような形で設計を行いました。止

歩道のウッドチップと並ぶような形で設計を行いました。止

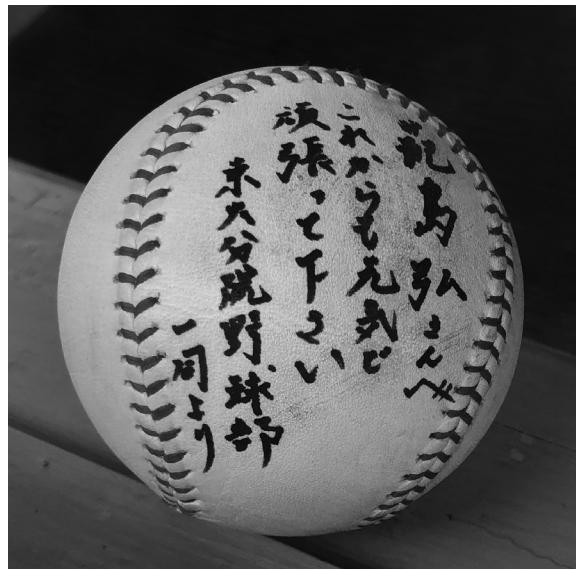
むを得ず伐採したものについても、碎いて遊

歩道のウッドチップと並ぶような形で設計を行いました。止

院時代には木々が多くあります。豊富な緑が特徴的です。そうした木々をなくさない工夫について教えてく

るべく伐採せず済むよう、避けるような形で設計を行いました。止

歩道のウッドチップと並ぶような形で設計を行いました。止



▲工事の際に見つかった分院野球部のボール

た。桜を植樹しました。本らしい風を感じてもらうためにも、GAヤマザキの山崎氏にご提案いただき新しく数種類の桜を植樹しました。

百周年を記念した記念碑と記念樹がありました。こちらについては「病院の杜」に移転・移植させました。病院の正面玄関前には分院



▲守衛所は分院時代のままだ

百周年を記念した記念碑と記念樹がありました。こちらについては「病院の杜」に移転・移植させました。病院の正面玄関前には分院

では、地域の子どももの遊びの広場として開放する予定です。通りに面した外堀も、堀が高い

医療系アプリの開発に携わりながら

小田原光一氏(M1)

今月は医学部に在籍しながら医療系アプリ開発のインターンをしているM1の小田原光一さんにお話を伺いました。

—今インターンをしていると聞いたのですが、具体的にどのようにことをしているのでしょうか。

データックという会社で問診アプリのプロダクトマネージャーをしており、アプリ改善などを行っています。具体的にはアプリユーザーからのフィードバックを基に、アプリ改善などを新規事業を担当しており、データ解析と医療をテーマに進出可能な業界を模索する役割を行っています。以前は新規事業を担当しており、データ解析と医療をテーマに進出可能なものもホットな分野ですね。もう少し詳しくお話を聞かせくださいま

—なるほど。アプリでの問診、データ解析などいずれも現在とてもホットな分野ですか。

問診アプリは会社の「データの活用こそが

医療革新の鍵である」という理念のもと、臨床研究に直結するようなデータ収集が行えるデザインになつております。サービスの基本的な軸は二つです。

一つ目の軸は、先ほど述べたように、正

確かつ大量のデータを収集・活用できるようなプラットフォームを提供

—化した情報を既存の

臨床研究における統計解析的な

アドバイスを行つた

一方、データ解析分野では実際の臨床研究における統計解析的な確実な一步を感じてき

—ところでも時折母校で受験相談に乗つて、地方の有効な評価指標を探索した

アカデミアでの研究開発しております。

福岡の大牟田高校と

—話が変わります

が、ご出身は。

—それでも続けられた理由は、会社の課題意識や使命感といった根幹の部分で共感できる部分があつたからです。

—話が変わります

が、ご出身は。

—これまで多かつたと思

うことはあります

か。

大変に感じること

は、実際に悩みを聞

いて行動変容を起こ

す。今の自分の計

画通りに未来の自分

が動いてくれないこ

とは保護者の方も同

じで、そのような状

況下でどう僕の助言

に価値を感じて行動し

—この題に対する普

遍的な答えは見つかり

ませんでしたが、一方

で教育業界の奥深さを

感じた良い機会だった

と思つておられます。

M.D.研究者育成プログラ

ムの勉強会にも

—M.D.研究者育成プログラ

ムの勉強会にも

—なぜこのようない

ターンをやろうと思つたのですか。

—初めは割と単純で、Scorpionsの先輩に誘

われて、ビジネスの経験を積むいい機会だと

思つたからですね。思

うようにいかず悩んだ

こともありましたが、そ

れは、先生の話を聞く

ので大掛かりなことで

はありませんが、これ

を機に動画解析の技術

を更に研鑽できればと

思います。

—普段はどのような

学生生活を送っていますか。

ばいいのかに逡巡を繰り返したという経験があり、「あのときどうしたらよかつたんだろう」という問い合わせに対する答えを求めてがん研究センターの門を叩きました。

緩和医療科では、毎朝30人くらいの患者さんに関するカンファから一日が始まりました。どういった患者さんがどういふ症状に対してもどの薬を

までの積極的治療から切り替えて開始するというイメージがあつたのですが、実は診断時から必要に応じて導入されるもので、痛みを予測し、生活を送りやすくするのが目的だと教わったのが印象的でした。様々な痛みの訴えをされる患者さんへいらっしゃつしゃつて、たとえ

それとも清水先生をはじめ精神腫瘍科の先生がため、そうした感情をしつかりと受け止め、言葉を患者さんに返していらっしゃいました。そのやり取りの中で、患者さんが少し納得して帰つていかれるというのが不思議な光景でした。どうやつて患者さんの思いを受け止め、どのような言葉を返

「病気の伝え方」サボート、入院中の A Y A 代の患者さんが集まるところができるピアサポートの場の提供、病気で外見が変化してしまうことによる悩みを扱う外見ケアなどです。外見ケアに関するレクチャー後に「こういった取り組みがあまり聞いたことがないのですが、全国的にはば



卒）が空き時間を全て我々のミニレクチャーやに充ててくださり、特にお世話になりました。鰻好きの石木先生から教えていただいた鰻屋さんに、同時期にがんセンターで実習をしていた興味の方向性が彼の同期と食べに行き、美味しい鰻を食べながら語り合つたのもいい思い出です。

域の公民館で年一回開催される「鎌田塾」という催しにも参加させていたしました。これは、鎌田實先生の講演に加え、地域の食生活改善推進員（食改さん、と呼ばれていました）に教えていただきながら、セロリ（長野ではセルリーと言うそうです）やエゴマ、寒天や凍み豆腐といった地域の食材を使い、栄養バラ

普及に努めてきたそうですが、初めは高塩分食に慣れた家族から「こんな味の薄いもの食べられるか！」と怒鳴られてしまう家庭も多かつたそうですが、長年の努力の結果、塩分摂取量を減らし、脳卒中を激減させることに成功したという話を伺いました。「このような活動は病院の役割ではない」という考え方もあるか

い東京でのの様子を含めた全ての地域にそのままで適用出来ることばかりではないかもしませんが、診断学の面白さや重要性について、そして地域の住民に密着して医療が存在していることの意義について、大いに学ばせていただいた二週間でした。この場をお借りして、ご指導いただいた先生がたに心より感謝申しあげます。

国立がん研究センターでのエレクラ体験記

M3の学生が外部病院にて鉄門俱楽部を介して夏期病院実習を行いました。今年度は11病院にご協力いただき、73名の学生が計149件の実習を行いました。実習をした多くの学生が、普段の実習とは一味違った学外の病院の空気に触れ、肌で感じたものを今後活かしていくことと存

け入れてくださった病院の先生がたやスタッフの方々には心より御礼申し上げます。来年度以降も機会がございましたら何卒よろしくお願い申し上げます。

(24)、国立国際医療研究センター(16)、東京都健康長寿医療センター(16)、焼津市立総合病院(10)、公立昭和病院(8)、さいたま赤十字病院(5)、がん研有明病院(1)、三井記念病院(1)、日本医科大学付属病院(1)、
(鉄門俱楽部学生委員副議長 関彩花)

5月20日から二週間
長野県茅野市の諏訪中
病院にお伺いしました
茅野市と言われてもび
と来ない方もいらっしゃ
るかと思いますが、田畠
に囲まれたとてものど
な地域で、八ヶ岳、蓼科
高原や白樺湖が近くにな
ります。諏訪中央病院は
元院長の今井澄先生（四
年卒）や名誉院長の鎌田

実先生による在宅医療
緩和ケアの草分け的存
在であり、総合診療科を
心に地域に根ざした医
を行っている病院です。
今回、私は総合診療科
の病棟実習を中心に行
ました。

病棟実習では指導医
人と後期研修医、初
研修医の計四人のチ
ームに配属され、入院患

で見まき見と意なもなに。多合多行したのは末期癌で臆ドレナージが必要な患者さんの診察でしたが、患者さんの病歴だけで家族背景まで詳細に把し、患者さんの曾孫の姿がとても印象的で明るく談笑している場所で、患者さんだけではなく家族にも気配りながら行う診察はとても新鮮な経験でした。

ら毎日行われる症例検討会（昼カンファレンス）がありました。昼カンファレンスでは、まず初めに「前座」として上級医の先生からの十分ほど「顔面神経麻痺の鑑別」から「人生会議」まで様々なテーマのレクチャーハンがあります。その後に、後期研修医からベテランまで幅広い



鉄門俱樂部夏期病院実習報告

エレクラ報告

田尻智哉氏（M4）

そして、病院の特徴的なイベントとして、昼食を取りながら毎日行われる症例検討会（昼カンファ）がありました。昼カンファでは、まず初めに「前座」として上級医の先生からの十分ほど「顔面神経麻痺の鑑別」から「人生会議」まで様々テーマのレクチャーがあります。その後に、後期研修医からベテランまで幅広い先生が最終診断を知らない状態で司会を担当しながら、主に初期研修医が症例を提示し、診断や今後必要な検査・治療について議論していく症例検討会を行っていました。私も一度昼カンファで症例を提示させていただきたのですが、診て聞けていたかったことや身体診察の抜け、鑑別として挙げていなかつた疾患を指摘され、診断のプロセスを学び、診断学の奥深さを知るとともに、基本的な診察技術を磨くことの重要性を改め実感しました。

また、実習に加えて地域の公民館で年一回開催される「鎌田塾」というのがあります。私はいつも参加させていたいのです。そこで、地域の食生活改善推進員（食改さん、と呼ばれていました）に教えていただきながら、七口（長野ではセルリーと言ううです）やエゴマ、寒天や凍み豆腐といった地域の食材を使い、栄養バランス

A black and white photograph showing a view through a fence towards a building labeled "病院" (Hospital) in large letters. To the left of the fence, there is dense vegetation and shrubs. A sign on the right side of the fence provides directions, with an arrow pointing towards the hospital building.

